

社会科学学習指導案

神辺町立御野小学校 指導者 三原 正司

1. 学 年
- 第5学年 1組 23名
2. 単元名
- 工業生産の発達とわたしたちの暮らし
3. 単元設定の理由

- 我が国は工業生産が盛んである。原材料を加工し、その形や性質を変えて生活や産業に役立つ製品を作り出している。工業製品では、機械工業で生産されたものが一番多く、その中でも、自動車は、生産量も生産額も輸出額も大きく、我が国の重要な工業製品である。また、主に原材料を輸入し、様々な関連工場で部品が作られ、組み立て工場で組み立てられる過程で、自動車を生産する人々の工夫や努力が見え、様々な部品や組み立てられた自動車を運ぶ運輸の働きも見える。さらに、多くの自動車は外国へも輸出されており、貿易の働きもとらえさせることができる。

本単元は、学習指導要領第5学年の内容(2)にもとづいて設定され、その中で内容(2)ウはその取り扱いについて、工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸の働きについて考えられるようにする、と注釈がつけられている。このように、自動車生産を取り上げることは、日本の工業生産の特色を理解させていく上で効果的であると考えられる。また、生産（つくる）と貿易・運輸（運ぶ）を一連の流れの中で学習することで、原料を製品にする工業生産と、その過程をベルトコンベヤーのようにつなぐ貿易や運輸の働きを関連させて考えさせることもねらいである。

○ 本学級の児童は、これまで社会科の学習では教科書や資料集、インターネットを中心に調べ学習をしてきた。そういった活動を通して、だれもが調べていないような資料を探し出すような児童や、資料により正確性を持たせるために、複数の資料を準備するような児童が育ってきている反面で、一つの資料を書き写すだけといった児童も見られ、まだまだ興味・関心の個人差が大きいのが現状である。このことは、昨年度行った到達度学力検査(CRT)において、社会的な思考・判断、観察・資料活用 of 技能・表現、社会的事象についての知識・理解という3つの観点においては、全国平均を1.2Pから3.7P上回っているにもかかわらず、社会的事象への関心・意欲・態度の観点においては、0.8P全国平均を下回っているという結果からも伺える。さらに詳しく結果を分析してみると、男子は、社会的事象への関心・意欲・態度の観点においては、3.2P女子平均を下回っているという結果から、社会的な事象に興味や関心を持って、ていねいに調べたり、資料などから読み取り関連づけて考えるといった力が特に課題である。

そこで、自ら関心を持たせるために、課題にあった資料を見つけ、発言の際に、根拠として示すことを重点的に取り組んできた。このことについては、多くの児童が達成できるようになってきているので、現在はより深く資料を読み取ったり、資料に客観性を持たせるために資料と資料とを関連づけて考えることに取り組んでいる。

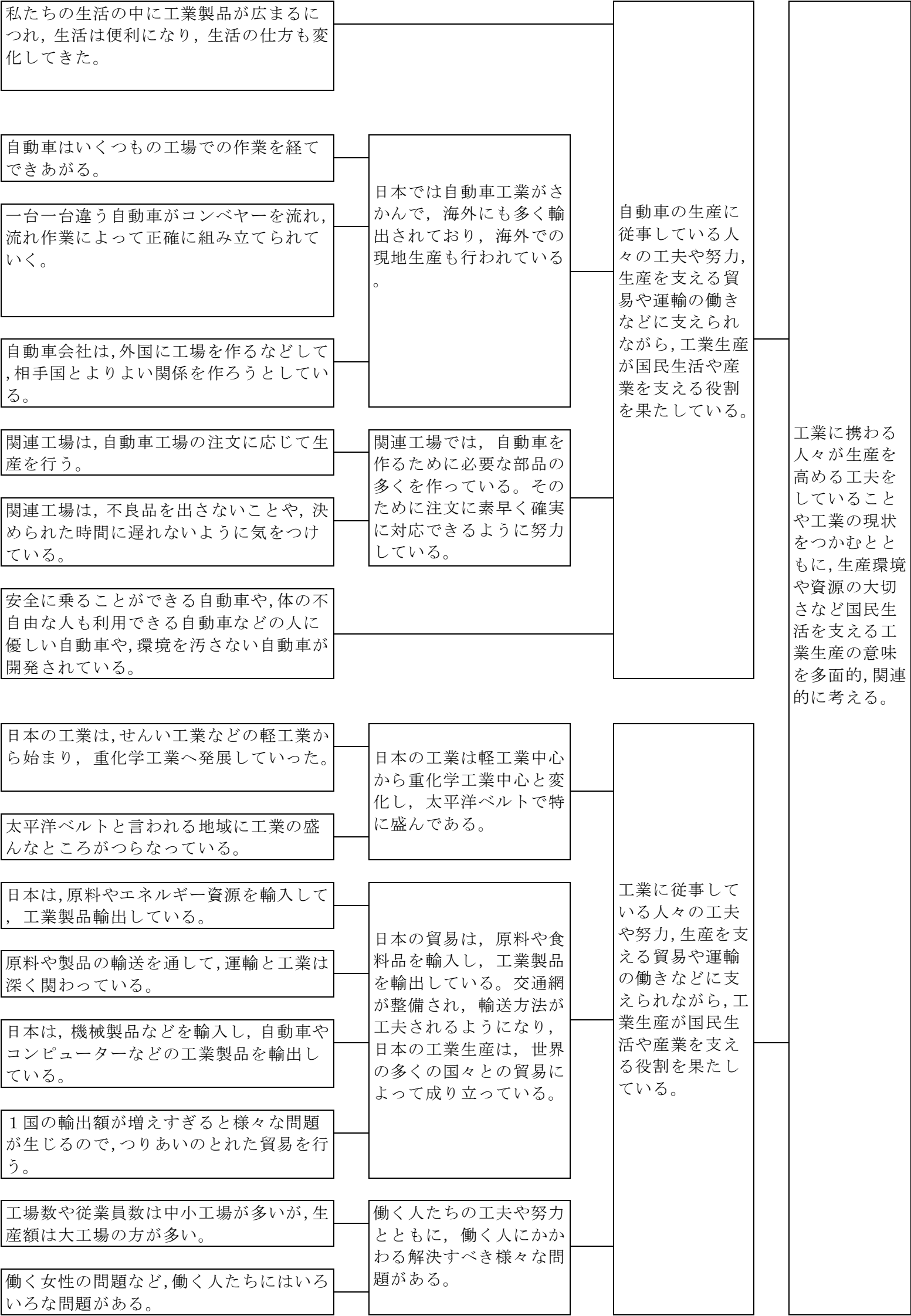
○ 指導に当たっては、単元の導入に際して、どのような工業製品をどれぐらい使っているかを調査し、工業製品が私たちの暮らしの中で欠かせないものであることをとらえさせたい。また、原材料を加工し、その形や性質を変えて付加価値を加え、生活や産業に役立つ製品を作り出すという工業の意味についてもとらえさせ、その原材料は鉄や石油といった輸入されているものが多いことの事実気づかせたい。そして、自動車の原材料から製品づくり、生産された自動車が全世界の消費者に届くまでを一連の流れの中で学習することで、貿易や運輸の働きに支えられた自動車生産と、自分たちの生活に重要な役割を果たしている自動車生産について考えさせたい。その際の貿易の問題などの調べ学習においては、**諸外国の自動車工業に関わる人々の思いや願いをつかませるために、その様子が分かる資料を提示して考えさせることにより、日本をはじめ諸外国の自動車会社が行っている貿易における問題解決のための努力にも気づかせたい。**同時に、まとめの段階では、これまでに調べたことから、**「日本の自動車生産のシステムを自分たちの日常生活に例えてみる」という活動を行うことで自分たちの身近な生活と生産（つくる）と貿易・運輸（運ぶ）との関連を考えたまとめができるようにしたい**と考える。

4. 単元の目標
- ・自動車を つくる 工業を調べることを通して、生産に従事している人々が生産を高める工夫や努力をしていることがわかり、貿易や運輸の働きをとらえ国民生活を支える工業生産の意味について考えることができる。

5. 単元の評価規準

ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 観察・資料活用 of 技能・表現	エ 社会的事象についての 知識・理解
・自動車工業の生産の様子に関心を持ち、進んで調べようとしている。 ・人と環境にやさしい車づくりに関心を持ち、自動車生産の発展を願おうとしている。	・自動車生産の様子について問題意識を持ち、学習の見通しをもって追究・解決している。 ・自動車生産が効率よく、安定的に行われているわけについて、関連工場の協力やロボットの生産などの工夫と関連づけて考えている。	・写真や文章資料と、各種の統計資料を目的に応じて読み取り、自動車生産の特色について、具体的に調べている。 ・調べた過程や結果を分かりやすく表現している。	・我が国の自動車生産が、人々の生活を支えていることがわかる。 ・自動車工場の生産の特色やこれからの課題、従事している人々の工夫や努力がわかる。

6. 単元構造図



7. 単元指導計画（全18時間）

段階	回数	時数	学習活動	評価規準				評価規準	評価方法
				関	思	技	知		
出会う		1	くらしの中で、どんな工業製品をどれくらい使っているかを調べる。 (1)	○				・さまざまな工業製品についてくらしとの関わりをとらえながら調べることができる。	ノート
		2	身の回りにある工業製品を調べ、それらは日常生活や産業活動を支えていることをとらえる。 (1)		◎			・工業製品が、私たちのくらしの中で欠かせないものであることをとらえることができる。	発表 ノート
決定する		3	くらしとつながっている自動車のことについて話し合い、調べていく視点を持つ。 (1)	○				・くらしと自動車のつながりについて、自動車工場のことについて調べていきたい視点を見つけることができる。	ノート
		4	自動車が多く工程を経て作られていることをつかみ、気づいたことをまとめ、表現する。 (1)			○		・自分の考えが表れるように工夫してまとめることができる。	発表
		5	自動車の生産は、流れ作業による分業と働く人の工夫や努力によって、生産できることをとらえる。 (1)		◎			・調べたことをもとにして、働く人の工夫や努力について考えることができる。	発表
		6	日本の自動車会社は、海外の工場でも生産していることを知り、これからのあり方を考える。 (本時)		○			・グラフや地図の基本資料から、自動車の輸出台数・生産台数・海外生産の広がりについて調べることができる。 ・これからの日本の自動車工業のあり方について、自分なりの考えを持つことができる。	ノート 発表
		7	部品を作る関連工場のことを調べ、そこで働く人の工夫や努力、苦労に気づく。 (1)		○			・関連工場働いている人の立場に立って、工夫や努力、苦労について考えることができる。	発表
		8	自動車工場と関連工場が協力することで、品質の高い自動車生産が実現できていることをとらえる。 (1)				◎	・1台の自動車は、様々な工夫と働く人の努力や苦労によって生産されていることを理解することができる。	ノート 発表
		9	人と環境のことを考えた車作りについて調べる。 (1)			◎		・人や環境にやさしい車づくりについて、意欲的に調べることができる。	行動観察
		10 11	自動車工場の見学を通して、学習のまとめを行う。 (2)	◎				・学習したことをもとにして、意欲的に自動車工場を見学し、まとめることができる。	ノート 行動観察
追究する		12	日本で盛んな工業の種類や生産額などについて調べ、その様子や特色をとらえる。 (1)	◎				・日本の工業の種類やその特色をとらえながら、工業の様子を詳しく調べていこうとする関心・問題意識を持つことができる。	ノート 発表
		13	それぞれの工業地域・地帯の特色をとらえる。 (1)			○		・工業のさかんな所などの資料を見て、それぞれの工業地帯。地域の特色をとらえることができる。	ノート
		14	工業原料やエネルギー資源や主な製品の動き、輸送機関の様子をとらえる。 (1)				○	・我が国の工業生産は、原料・製品の輸送や加工貿易に支えられていることを理解することができる。	発表
		15	輸出入の様子や特色をつかみ、問題点気づき、解決策を考える。 (1)				◎	・日本の輸入・輸出の特色をつかむことができる。	発表
		16	中小工場で働く人々の生産を高めるための工夫や努力をとらえる。 (1)		◎			・中小工場で働く人々が、生産を高めるために工夫や努力をしていることに気づくことができる。	ノート 発表

		17	働く人を守るためにきまりがあること、働く人にかかわる様々な問題に気づく。 (1)		◎		・働く人にかかわる問題について、自分で計画を立て、調べることができる。	ノート
交流する		18	学習のまとめとしてこれからの工業製品パンフレットづくりをする。 (1)	◎			・自分の発想を生かし、これから役に立つと思われる工業製品を考えることができる。	行動観察

8. 本時の学習

- (1) 本時の目標
- 日本の自動車会社は、自動車を日本で生産するだけでなく、海外の工場でも生産していることを知り、これからの自動車工業のあり方を考えていくことができる。

- (2) 評価規準の観点
- 自動車の輸出による問題点がわかる。 【観察・資料活用の技能・表現】
- ◎これからの自動車生産について考えることができる。 【社会的な思考・判断】

- (3) 準備物
- 指導者・・・日米の乗用車の生産台数の推移のグラフ、乗用車の輸出入台数推移のグラフ、日本車をこわすアメリカ人の写真、アメリカにある日本の自動車会社の写真

(4) 本時の展開

過 程	学習活動・発問及び予想される反応	資料提示	指導上の留意点	評価基準と (評価方法)
つかむ	①自動車の輸出入台数の変化について調べる。 ○自動車の輸出入台数の変化について調べたことを発表しよう。 ・70年から、輸出の伸びが急になっている。 。 ・90年から、輸出台数は減ってきている。 ・輸入は輸出よりは少ないが、90年から増えている。 ・日本の自動車会社の海外工場の増加。 ・80年から93年までは、日本は自動車生産世界第1位。	○日米の乗用車の生産台数の推移のグラフと乗用車の輸出入台数推移のグラフ ・		
課題	②課題を確認する。			
予想	日本は自動車生産量が多いのに、なぜ輸入量が増えているのだろうか？			○自動車の輸

す る	③自動車の輸出入をめぐる状況について調べる。 ○写真から自動車の貿易について、外国との間にどんな問題が起きているのだろう。 ・外国では日本車は人気が高く、安い値段で買うことができる。 ・外国車は日本では値段が高いからなかなか売れない。 ・日本へは自由に輸出できない。 ・日本の自動車を買わない運動が起きたり、アメリカへの自動車の輸出を制限したりした。 ・日本の会社が外国に工場を建てて日本の車を売っている。 ○どうして外国では日本の車に対して問題が起こったのだろうか ・安くて性能のいい日本車がアメリカで大量に売られるようになって、アメリカの自動車あまり売れなくなってきた。 ・自動車工場の生産が半分に落ち、たくさんの人が仕事を失った。	○日本車をこわすアメリカ人の写真 ○アメリカにある日本の自動車会社の写真 ・アメリカで起きている自動車の輸入をめぐる日本への反感について考えさせる。		出入台数・生産台数・海外生産の広がりから問題点について考えることができる。 (発表・ノート)
深める			・学習したことを根拠に発言をさせる。	
まとめる	④日本の自動車会社の対応について整理する。 ○日本の自動車会社はどんな工夫をしているのだろう。 ・日本の自動車会社はアメリカなど外国に自動車工場を作っている。 ・外国の人が作った日本の自動車を日本が輸入している。 ⑤学習のまとめをする。 ○今日の学習で、わかったことや疑問に思ったことをノートに書きましょう。		・日本の自動車会社の工夫について考えをまとめる。	◎これからの日本の自動車工業のあり方について、自分なりに考えている。 (発表・ノート)